

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492700073	事業の開始年月日	H23・12・11
		指定年月日	H23・12・1
法人名	株式会社 中央ケアサービス		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 みうらうみ		
所在地	(238-0101) 神奈川県三浦市南下浦町上宮田1738-1		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25 名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	通い定員	15 名
		宿泊定員	7 名
		定員 計	名
		ユニット数	ユニット
	自己評価作成日	平成26年1月25日	評価結果 市町村受理日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域、我が家で今までと変わらない生活の継続ができるように、利用者の個別ニーズを丁寧に汲み取り、それに応えて行く事を旨としている。通いサービスは集団ケア的面が見受けられがちであるが、その中で、個別ケアという視点を重視し、利用者一人一人の時間の流れを大切にしている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会 評価推進課		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年3月27日	評価機関 評価決定日	平成26年5月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所は京浜急行三浦海岸駅から徒歩5分ほどの海に見える高台にあり見晴らしが良い。 平成23年に三浦中央医院の2階部分を改修し、医療と介護を一体化した小規模多機能型居宅介護事業所として開設した。1階の医院は一時閉じていたが、平成26年4月から新たな院長を得て、診療再開を予定しており、今後は更なる医療との連携が期待されている。現在の利用状況は、通い17名、訪問5名、泊り1～2名である。経営理念は「その人らしい生活に寄り添うケア」を目指している。宿泊室にはナースコールが備えられている。 【医療と健康管理】 協力医療機関の訪問診療と看護師による健康管理が行われ、内科と歯科は月に1回の訪問診療がある。 【利用者の暮らしぶり】 建物からの展望は、富士山から千葉県の対岸まで一望できる。居間は三方が窓で明るく、季節の生花、観葉植物などが飾られ清潔である。年間行事計画があり、春秋の花見、食事会、敬老会、クリスマス会などがある。利用者は居間で合唱、塗り絵、手芸などを楽しみ寛いでいる。ボランティアが訪れ、本の朗読、紙芝居、歌唱などの支援がある。職員が体操、塗り絵、手芸などを支援している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護 みうらうみ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者本位考え方を基本として当事業所の理念「住み慣れた三浦…いつもの生活の場所で安心して年をとってもらうために“その人らしい生活”に寄り添うケアを実践している。	事業所の開設時に、法人代表と管理者で作成した理念を現在も踏襲している。職員の入職時に説明し、職員会議で周知を図っている。昨年12月に法人代表が改めて、理念についての研修を行った。理念は玄関、職員更衣室に掲示している。また、職員の意思で作成した「年度のスローガン」が職員更衣室に掲示されている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域つながりを可能できるように自治会との連絡調整に努め、今後、自治会に加入し行事に参加するよう努めている。また、平成26年度に「みうら市民まつり」参加し地域と交流するよう計画している。	ボランティアが月曜、金曜日に定期的に訪れ、本の朗読、話し相手、紙芝居、歌唱などの支援がある。クリスマス会や敬老会にはハーモニカ演奏、日舞などで楽しませてくれる。自治会や町内行事への参加はない。今後は「みうら市民祭り」などに利用者の作品を出品し、地域にアピールして行く意向である。	自治会、近隣住民、小学校などと連携を図り、地域の一員として日常的に交流することを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に、利用者の作品の展示や、訪れた住民に事業所の説明をしている。市民児協、ボランティア、との交流を積極的に進めている。上記同様にまつりに参加して作品展示する計画です。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所からの一方的な報告でなく、各委員より意見をもらっている。運営推進会議での意見は職員間で共有し、実現できるようにしている。	2ヵ月ごとに開催し、自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、事業所の出席がある。会議では運営報告、防災訓練、スプリンクラー設置計画などの報告を行い、出席者から助言をもらっている。利用者、利用者家族の参加はない。	運営推進会議を、利用者・家族の意見・要望を聞く機会としてとらえ、出席してもらうことを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス提供を行う上で、何か少しでも疑問等がある場合は、その都度、市担当者へ連絡を取り、保険者担当より助言をいただき、協力関係を築けている。	三浦市高齢介護課とは、開設以来運営相談などで連携を図っている。市が市内3つの同業者を集め、情報交換会を開催しており、法人代表が出席している。消防訓練には消防署から職員を派遣してもらい指導を受けている。地域包括支援センターから感染症などの研修通知があり出席している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入口の施錠は開放して、見守りで対応している。不穩で落ち着かない利用者には、マンツーマン体制で見守り対応している。常にご利用者の意思・人格を尊重したケアを行っている。また、出入口にセンサーを設置する等工夫しております。	身体拘束廃止の独自マニュアルを作成したが、職員研修は行われていない。玄関は夜間は施錠するが、日中は見守りで対応し、施錠しない。不意の外出を防ぐため、玄関にセンサーを付けている。	身体拘束廃止の研修を実施し、理解・周知することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員に高齢者虐待防止法について朝礼・終礼時に伝達し、虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の権利擁護担当者と随時、連携している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時には、十分時間をとり、サービス内容、利用料金、特徴、事業所としてのケアへの考えをご理解いただけるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者との時間を大切に、ご家族には連絡帳を活用してご意見・ご要望をお聞きして、そのご意見等を職員会議で意見交換して運営に反映させている。 ・年1回アンケートを実施して利用者・ご家族の意見を集約して反映させている。	家族の意見は送迎時に聞いたり、連絡帳でやり取りしている。年に1回「聞き取りアンケート」を実施し、利用者からの要望でカラオケセットを購入した。敬老会やクリスマス会では、希望を聞き寿司をとっている。家族の行事への参加が少ない。	行事を家族同士の意見聴取の場としてとらえ、より多くの家族の出席を期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に、職員とのコミュニケーションを取り、また職員会議(1回/月)意見・提案を尊重して、良いケアに反映させている。	毎月の職員会議で意見・要望を聞いている。連絡ノートに記載された意見も会議で検討している。議事録の作成を輪番制にして、職員の意識向上に努めている。個別面談は事務長が行っている。「年度のスローガン」は職員の意思で作成した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時利用者のニーズに合わせた職員の調整、確保、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	少人数の勤務体制なので、随時のミーティングや日々の業務中で情報を共有している。また事業所で様々な研修会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	三浦市が主催する介護保険事業対象にした会議に積極的に参加し、情報交換を行っている。また、他の2小規模多機能型居宅介護事業所と常に情報交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時には、ゆっくりと時間をとった傾聴を心がけ、信頼関係の構築をしていく中で、家族、事業者、その他社会資源等で、できることを話し合っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には直接的な対応（相談）もしながら困りごとの解決に向けた色々な方法を一緒に考えながら信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者ニーズに即応できるものは対応し、できなくとも、他関係等と連携をとり、あらゆる相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者個々の好みや、趣味、特技等を聞き取り、ときには利用者から職員が教わる場面も作るよう工夫して、助け合い・ふれあいの機会をつくれるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の送迎時や連絡ノートで、家族とのコミュニケーションを心がけ、信頼関係の構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の延長線上のように、訪問者（家族、友人）も自然に事業所として受け入れ、地域において、継続的な交流ができるよう支援している。	近隣からの通い利用者が多く、馴染み同士で申し合わせて来所している。利用者から要望があれば、送迎の途中に湘南国際村などに立ち寄ることもある。知人との交友は家族が対応している。馴染みの訪問美容・理容の来訪がある。初詣には馴染みの海南神社に出かけている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者個々の性格等を理解し、その場の雰囲気を感じ取りながら歌を歌ったり会話する等して、共に楽しみ励まし合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方においても、介護の相談窓口として、利用者やご家族に連絡を取るように心がけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段、何げないいつもの会話の中でも、表情やしぐさからも、本人ニーズを探るようにして、会話の時間を多く設けている。	思いや意向は初回の面接で聞いている。計画作成担当者が月に1回利用者宅を訪問し、意向を把握している。家族の来訪時にも聞いている。日々の要望は「連絡帳」に記載し、職員は確認し捺印している。簡単な「聞き取りアンケート」を実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに留意しつつ、ご利用者やご家族の思いを尊重した上で、出来るだけ正確に詳しくその方固有の暮らしが把握できるようお話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者やご家族や担当職員等から情報を収集し、実態を確認することで現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事業所だけが一方的に企画することではなく、ご利用者やご家族等の意見を参考に研修会（職員会議）検討して計画を作成している。	初回の介護計画作成時はサービス担当者会議を開いている。介護計画の見直しは、本人・家族、計画作成担当者、管理者で話し合い、要介護認定更新ごとに行っている。心身の状態に変化があれば随時見直している。従前のかかりつけ医の意見は、家族から聴取してケアプランに反映している。	モニタリングや介護計画見直しのための評価をおこない、カンファレンスでは、職員の意見を計画に反映させる工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、ケアカンファや申し送りで職員間で共有をし、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族のニーズに合わせて、通院介助や送迎や、緊急時の訪問やお泊り等、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	随時或いは定期的に地域のボランティアに、歌・踊り・話し相手・紙芝居・音楽演奏等していただきご利用者楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院・緊急時にはその都度柔軟に職員対応している。	現在のかかりつけ医の割合は、従前からのかかりつけ医3：事業所の協力医7である。従前医の受診は家族が付き添っている。協力医の診療は内科と歯科は月に1回ある。看護師による健康管理が行われ、夜間の電話にも対応している。緊急の場合は職員が協力医に付き添う。この4月には1階の医院が診療を再開するので、医療との連携強化が期待される。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や身体の変化に築いた時は看護師に相談し指示をあおぎ、又、緊急時はご家族に連絡取り応じて支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の相談室や病棟とは情報交換をしている。入院時には、職員が見舞いに行き、家族とも情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意思、意向を踏まえながら、看護職と連携し、支援している。	利用者の重度化と終末期の対応方法については検討中である。職員研修は行われていない。この4月に1階の医院の診療が再開されるので、医療との連携を密に取り組む意向である。	重度化や終末期の対応について職員と意識の共有化を図り、利用者・家族には事業所の対応方針を利用開始前に説明されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成して職員に周知徹底を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を作成して職員に周知徹底を図っている。年1回の防災訓練を実施している。	消火・避難訓練（昼間想定）を年に1回、消防署の立ち合いで実施している。地域との協力はない。消火器と消防署への自動通報設備は設置しているが、スプリンクラーは今後設置する意向である。非常用食料、飲料水、備品の備蓄は万全でない。	消火・避難訓練は年に2回程度、定期的実施することが望まれます。訓練では併設医院や地域との協力体制を築くことを期待します。災害備蓄（食料、飲料水、備品）は3日分程度を備え、在庫管理することを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のプライバシーを尊重し、尊敬の念を持って接し、不快感を与えない支援を心かけている。	利用者の契約時と職員の入職時に守秘義務の説明を行い、同意書・誓約書を受け取っている。職員会議の中で法人代表、事務長、管理者が接遇研修をしている。個人情報に係る重要な書類は、職員室のロッカーに施錠保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや要望を汲み取るために、寄り添い耳を傾け自己決定していただけるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の生活状況に応じた通いのスペースの中で入浴・食事・レクリエーションなど希望に添った支援をしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後には、ご利用者が持参した服、下着に着替えていただき、また、ご希望があれば訪問美容・理容で対応し希望の添った支援をしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	24.9まではご利用者に嗜好に添った調理をしていましたが、10月からは市社協実施している障害者就労支援事業所よりお弁当を取り、嗜好凝らしたお弁当食を味わっていただいている。	食事は市社協の就労継続支援事業所の弁当を購入し、職員が個々の嗜好、食形態に合わせて盛り付けしている。汁物は職員が作り、主菜は魚、肉類の選択が出来る。利用者は食器拭きなど出来ることを手伝っている。食事会や敬老会などの際は行事食を提供している。職員は介助に専念し、管理者が月に1回検食している。	利用者と一緒に同じ食事を楽しむ環境をつくるため、職員も同じテーブルにつき、同じ食事をとることを期待します。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	サービス利用中の食事摂取量や水分量を記録することによって栄養や水分が確保できているかを把握し、医療から指示に準じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔体操、食後の口腔衛生を欠かさず行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の時間等をチェックし記録することによって、排泄パターンを把握し、失敗なく、オムツのご利用者でも出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。	排泄は自立の人がほとんどである。2名の人のみ、排泄パターンをもとに声掛けし、トイレに誘導し自立支援が行われている。トイレは2ヵ所ある。車いす対応のものと、浴室に通じているものがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物での改善アドバイスや、運動や腹部マッサージを行って予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個別での入浴を実施、概ね入浴時間は決めているものの利用者ニーズに合わせ、その都度対応している。	通い、宿泊の利用者全員が毎回入浴している。脱衣所にはファンヒーターと扇風機を備えている。清拭や同性介助の要望があれば対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の生活リズムや、体調に合わせた休息を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、看護師からの指示、家族との連絡等により、本人の状況を見ながら支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を知り、ご利用者個々のやる意欲を引き出せるよう、決めごとではない柔軟でさりげない支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年次計画に基づいて、ご利用者のご希望に添える外出（花見・食事・ドライブ）するよう支援している。ご要望把握については、年1回利用者アンケートを実施して収集してます。	天気の良い日は、希望を募り散歩している。外出行事計画に沿って花見や食事会に出かけている。送迎途中でも希望があれば、湘南国際村などにも立ち寄ることがある。	日常的な散歩、買い物、外気浴などを積極的に取り入れることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、買い物・通院などご家族と連絡を取り合って支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、電話が出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある部屋の飾りつけ心がけている。例えば、フロアのボードに華やかな飾り付けや季節の花を生けるなどの工夫をしている。	小高い丘に建つ建物からの展望は、富士山から浦賀水道を挟んで千葉の対岸まで一望できる。居間は三方が窓で明るく、季節の生花、観葉植物、写真などが飾られソファが置かれている。厨房から職員が見守りやすいように配置されている。共用空間はバリアフリーである。利用者は居間で合唱、塗り絵、手芸などを楽しみ寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の座席を配慮したり、ソファを設置することで思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの際は、なるべく同じ部屋を利用し、ご利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	泊まりの部屋は洋室のほか、和室や夫婦部屋として利用できる部屋もあり、好みの部屋が選べる。エアコン、照明器具、ベット、ナースコール、頭床台（物入れ）、洗面台、絵画が備えられている。利用者は着替えや身の回りのものを持ちこんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者個々の趣味嗜好を良く知り、その方が出来る作業（塗り絵・手芸等）をして楽しく自立した生活が送れるよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名

小規模多機能ホーム
「みうらうみ」

作成日

平成26年7月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策（避難訓練・備蓄）に関して	消防法に基づき年2回の避難訓練を消防署と連携して実施した備蓄管理をする。	年2回 春・秋に三浦市消防本部と連携して、消防署員立会いのもと、避難訓練を計画的に実施する。また、災害備蓄も早急に整え管理する。	早急
2	33	重度化及び看取りに関する対応について	重度化及び看取りに関し、利用時に説明していく。	早急に重要事項説明書に記し、契約時に重度化した場合のご利用について説明して理解を得るよう努める。	早急
3	26	モニタリング等について	計画見直しに介護職員の意見を反映させる。	職場会を最低月1回実施して、介護職員の意見を聞き介護計画に反映するようにする。	早急
4	40	昼食時、ご利用者とのコミュニケーションについて	出来るだけ昼食時に、コミュニケーションを取れるよう工夫する。	立ったままでの見守りではなく、目線を合わせて座って、会話をしながらコミュニケーション取れるようにしていく。	早急
5	2	地域との連携について	推進会議委員長が自治会長なので、相談調整して連携を図れるよう努める。	情報を収集して連携を図って行く。	随時
6	4	推進会議の構成について	推進会議のメンバーを多岐から選出するようにする。	今後、早急に介護者等を選出する。	早急
7	6	身体拘束研修について	マニュアルに基づき研修を実施する。	毎月実施の職員研修の場で「身体拘束」をテーマに研修をし理解・周知する。	早急



目 標 達 成 計 画

事業所名

小規模多機能ホーム
「みうらうみ」

作成日

平成26年7月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
8	10	介護者等の意見聴取について	年間行事に家族招待に努める。	行事毎に介護者等に案内して、より多くの介護者等に参加していただけるよう工夫し意見要望等を聴取します。	年度内
9	40	外出支援について	今後、外出行事を増やします。	外出行事を増やします。また、評価後に施設菜園を設置して水まきや収穫をご利用者にして頂き外気欲しています。	年度内

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。